

令和6年度学校評価（自己評価）の報告

印西市立小林中学校

1 アンケート結果

(1) 生徒アンケート結果

- ・数字は「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答の%
- ・矢印は昨年度の結果との比較、3%以内の増減は「－」のマークで表記

(回収率：85%)

No	評価項目 (%)	R 5	R 6	比較
1	あなたは、学校のめあてや目標を知っていますか。	9 6	9 5	－
2	あなたは、進んで学習に取り組んでいますか。	8 7	8 4	－
3	授業はわかりやすいですか。	9 4	9 4	－
4	あなたは、家庭で宿題や課題等、家庭学習に取り組んでいますか。	8 1	7 3	↓
5	あなたは、友達を大切にしていますか。	9 8	9 9	－
6	あなたは、自他の命を大切にし、感謝の気持ちを持って生活していますか。	9 8	9 8	－
7	あなたは、健康に気を付けて生活していますか。	9 8	8 7	↓
8	先生方は、あなたの良さや頑張りを認めてくれていますか。	9 6	9 2	↓
9	先生方は、いじめがあったとき、よく話を聞いて対応してくれていると思いますか。	9 4	8 9	↓
10	学習や生活で困ったことがあった時、先生方はすぐに話を聞いて対応してくれていると思いますか。	9 6	9 3	－
11	あなたは、事故にあわないように気を付けて生活していますか。	9 9	9 9	－
12	学校の施設・設備は整っていると思いますか。	7 6	7 6	－
13	保護者や地域の方々で行う活動は充実していますか。	7 6	7 9	－

＜成果と課題＞

- ほとんどの項目で肯定的な評価となった。
- 学習面では、昨年度と同様の割合になった。各学年で、ワークマスターやプレテスト等の取り組みを行っており、学習への取り組みがさらに向上するよう工夫していく。また、学習に対し今後とも主体的に取り組む学習ができるよう、学習意欲の喚起とそのための指導方法の工夫・改善を図る。特に、I C T機器の活用をさらに充実させる。
- 生活面では、項目8～10の教師の対応について昨年よりも低くなったが、肯定的評価は高いので、個々への支援等の充実を図っていききたい。また、項目5・6に関しては、ほとんどの生徒が肯定的評価だったので、道徳や学活でも意識の向上をさらに図っていった、心の成長を促していききたい。

(2) 保護者アンケート結果

- ・数字は「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答の%
- ・矢印は昨年度の結果との比較、3%以内の増減は「－」のマークで表記

(回収率：79%)

No	評価項目	R 5	R 6	比較
1	あなたは、学校の教育方針や教育目標をご存じですか。	6 5	6 7	－
2	お子さんは、意欲的に学習に取り組んでいると思いますか。	6 6	5 5	↓
3	お子さんは、授業がわかりやすいと言っていますか。	5 9	5 1	↓
4	お子さんは、家庭で宿題や課題等、家庭学習に取り組んでいますか。	6 7	5 9	↓
5	お子さんは、友達を大切にしていると思いますか。	9 6	9 7	－
6	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。	7 4	7 3	－
7	お子さんは、健康に気を付けて生活していると思いますか。	7 6	7 5	－

8	学校は、一人ひとりの子供を大切にしたい指導や対応ができていると思いますか。	7 3	7 3	—
9	学校では、いじめがあったとき、すぐ話を聞いて対応してくれていると思いますか。	5 9	6 5	↑
10	学習や生活で困ったことがあった時、先生方はすぐに話を聞いて対応していますか。	7 6	7 8	—
11	学校は、子供の事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	7 6	8 1	↑
12	学校の施設・設備は整っていると思いますか。	6 7	6 9	—
13	学校は、市や地域の環境・施設・人材を教育活動に活かしていると思いますか。	6 2	6 2	—

＜成果と課題＞

- 保護者の方からも全体的に肯定的な評価となった。しかし、学習面の項目 2・4 において、昨年度より下がる結果になった。この結果については、十分に比較検討をし、肯定的評価の向上に向けて考えていく。また、項目 2～4 については保護者と生徒の肯定的評価の差が大きく、今後の課題となる。広報の面も含め、肯定的評価の向上のために検討を進めていきたい。特に 4 については、生徒が自主的に取り組めるものを工夫していく。
- 生活面の項目 9～11 の結果が昨年度より上がった。これまで以上に、きめ細かな指導、教育相談の充実、アンケートの実施等を通し、家庭と連携しながら、生徒指導の充実に努めていきたい。ただし、「わからない」の回答もあるので、学校だよりなどの通信手段やその内容について検討していく。

2 自己評価から

教員による自己評価を実施した。主な評価は概ね以下のとおりである。

- (1) 学習面においては、学年によって取り組みの差が見られる。学年が上がるにつれ、よい成果が見られる。しかし、学習時間が結果に結びつかない生徒も多いので、取り組み方を見直し、自分に合った学習方法の確立に向けた助言等が求められる。
- (2) 生活面においては、全体的に落ち着いた生活を送ることができている。ただし、一部生徒に落ち着きがなかったり、身の回りの整頓ができなかったり等、課題もある。個別の対応をしながら、全体への対応を効果的に行っていく必要がある。
- (3) 特別支援教育では、個別の教育支援計画及び個別の指導計画をもとに、保護者と合意形成を図りながら進めることができた。また、校外学習や小中連携事業等、生徒の交流や活動機会が増え、生徒の大きな成長が見られた。
- (4) 安全教育については、避難訓練の実施等、安全な生活を啓発してきた。また、年々増えていく自然災害への対応、不審者対応、熱中症のマニュアルの改善を図った。施設の修繕や故障等、市教育委員会と連携して素早く対応できた。施設の老朽化、震災後の施設のゆがみや傾き、特別教室の夏季使用等が今後も心配である。
- (5) 生徒はコロナ禍での生活が影響しているためか、基礎体力の低下が見られるのが課題である。また、感染症にかかる生徒も少なくなく、感染予防対策にも気を配る必要がある。

3 学校評価委員会議から（2月28日実施）

- (1) 参加者（学校評価委員 3 名、校長、教頭）
 - ・小林中学校第 3 代校長
 - ・小林住みよいまちづくり会理事長
 - ・社会福祉協議会小林地区理事（欠席）
 - ・青少年相談委員小林地区長

(2) 会議の内容

- ①本年度の本校活動について
- ②3年生の進路状況について
- ③学校評価アンケートについて
- ④意見交換

<主な意見>

- ・今回の結果はたいへんよい数字である。先生方のがんばりのおかげだと考える。特に項目8～10の結果が90%前後なのは生徒と先生との関係がいい証拠である。
- ・自分に自信をもてるような生徒を育成して欲しい。自分の好きなことがあれば自信がつく。また、そのきっかけ作りも必要である。
- ・地元学として地元の歴史・自然を学んで欲しい。
- ・リーダーの育成をしていくとさらに良くなる。
- ・もっと挨拶ができるようになるとさらに良くなる。今後、子ども守り隊でも小学生や中学生にすすんで挨拶をしていく。

【学校運営について】

- ・不登校生徒の対応については、市の適応指導教室「森のステーションまきば」に通室している生徒もいる。学校に登校し、校内サポートルールを利用できそうな生徒もいる。予餞会を見学することができた生徒もいる。連携をさらに強化させていきたい。
- ・ICT推進として12月に情報化認定の優良校になった。生徒と職員の力をさらにつけていきたい。
- ・部活動移行の推移について、学校での現状を伝えた。印西市ではバレーボールと野球が来年8月から先行で土日地域クラブになる。平日は引き続き学校で活動を行う。
- ・保護者のアンケートの中の項目に「わからない」と回答している保護者がいるので、情報伝達などを含めて検討していきたい。
- ・来年度の新入生は少し減少するがほぼ現状維持の状況である。
- ・生徒たちは地域の方の支えに感謝している。特に、子ども守り隊の活動は生徒もよく見ており、挨拶をしていただけるので、非常に好意的である。

4 次年度に向けて

本年度の学校評価アンケートの結果及び学校評価委員会議で出された意見を基に、学習指導・生徒指導・特別支援教育・安全・保健・学校行事等の課題を明確にし、次年度に向けて検討・改善していく。挨拶は校内だけでなく地域の方へもできるような手立てを講じていきたい。